

## 2020「日本史研究」授業プリント No.2

### 《 中 央 》

- (1) (① ) = 将軍補佐、政務の統括  
三管領 = ( (② ) ) ・ (③ ) ・ 畠山) を交代で任命
- (2) 侍所 = 京都内外の警備・刑事裁判を管轄  
長官は (④ ) とよばれる  
四職 = ( (⑤ ) ) ・ 一色 ・ (⑥ ) ・ 京極) から任命
- (3) (⑦ ) = 将軍直轄軍で、将軍警護や将軍直轄領を管理

### 《 地 方 》

- (1) (⑧ ) = ※関東8か国と伊豆・甲斐(のちに陸奥・出羽も)管轄  
※関東8か国とは (⑨ )  
(⑩ ) (尊氏の子、基氏子孫) を 関東管領(上杉氏)が補佐  
侍所・政所・問注所・評定衆の諸機関を有する  
強大な権限ゆえ、京都の幕府・将軍と対立する傾向
- (2) (⑪ ) = 在京が原則であったので領国は (⑫ ) が統括  
鎌倉府管轄下の守護は鎌倉在住が原則であった

### 3 幕府の財政基盤

- (1) (⑬ ) = 将軍直轄領で、奉公衆が管理
- (2) (⑭ ) ・ 酒屋役 = 京都で高利貸を営む土倉・酒屋に賦課
- (3) (⑮ ) ・ 津料 = 交通の要所に課された通行税
- (4) 五山官銭 = 京都五山の僧侶に賦課
- (5) (⑯ ) = 日明貿易の利益に賦課
- (6) 段銭 ・ (⑰ ) = 国家的行事の際に守護を通して賦課

## 《東アジアとの交易》

- 1 (① ) (前期倭寇)  
 南北朝動乱期、対馬・壹岐・(② ) 半島を拠点に朝鮮半島や中国大陸沿岸  
 で略奪行為をおこなった海賊集団  
 (③ ) は日本に倭寇禁圧を求めたが、動乱のため不可能

### 2 中国との関係

#### (1) 元との通交 = 正式国交なし、私貿易形式

- (④ ) (1325) — 鎌倉幕府が建長寺造営費調達のため派遣  
 (⑤ ) (1342) — 足利尊氏が後醍醐天皇の菩提を弔うために  
 天竜寺造営費調達のため派遣

#### (2) (⑥ ) の建国

- (⑦ ) (太祖洪武帝)、明を建国(1368)

↓ 明を中心とする国際秩序の回復をはかる

#### (3) 日明貿易 = (⑧ )

**契機** 足利義満、明に使者(正使祖阿、副使肥富)を派遣(1401)

**形式** (⑨ ) 貿易 = 滞在費・運搬費は明側が負担 = 利益大

↳ 日本国王として中国皇帝への臣従が前提 = 屈辱的

**内容** 勘合貿易 = 倭寇と区別するため勘合の持参が必要

輸出品：(⑩ )・硫黄・(⑪ )・扇・屏風

輸入品：(⑫ )・(⑬ )・高級織物・陶磁器・書画

**推移**

1404	貿易開始
1411	4代将軍足利(⑭)、朝貢形式に反対して中断
1432	6代将軍足利(⑮)、貿易再開
15c後半	細川氏+(⑯)商人 vs 大内氏+(⑰)商人
1523	(⑱)の乱 → 以後は大内氏が独占
1551	(⑲)氏の滅亡で、貿易断絶

#### (4) 後期倭寇

勘合貿易断絶後、中国人などの密貿易業者が活動 豊臣秀吉の海賊取締令まで続く